

ナシ黒星病情報第1号

令和元年10月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナシ黒星病の伝染源量を減らすため、落葉処分や防除を実施しましょう！

1 発生状況

9月下旬に行った巡回調査（32ほ場調査）では、平年並の発生量でしたが、一部で多発しているほ場がありました。

2 ナシ黒星病菌の生態

- (1) 秋型病斑（図）の本病原菌は、落葉中でも生存できます。落葉中で越冬後、子のう胞子を形成し、風雨により翌春の新葉に到達し感染します。これが最も重要な第一次伝染源です。
- (2) また、落葉するまでの間に、雨水とともに発病部から芽基部に分生胞子が到達し、りん片に感染します。りん片内でそのまま越冬し、これが翌春のりん片発病芽となります。これも第一次伝染源の一つとなります。10～11月は本病原菌の感染適温（15～21℃）の時間が長く、また、ナシの花芽内部が肥大し、りん片組織が露出するため、感染しやすい時期にあたります。

3 防除対策

- (1) 発病葉は、見つけ次第除去しましょう。
- (2) 落葉を処理して、本病原菌の越冬源をなくしましょう。
落葉処理の方法の詳細は、富山県農林水産総合技術センターWeb ページ内「ナシ黒星病の落葉処理マニュアル」（http://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/engei/webfile/t1_be391dca8947e33c1243e3978839940a.pdf）に記載されていますので、参考にしてください。
- (3) 分生胞子がりん片に感染するのを防ぐため、表を参考に10月中旬～11月上旬頃にかけて薬剤を2～3回散布しましょう。
- (4) 落葉後のせん定は早めに行い、翌春、菌が活動し始める前（2月中下旬頃）までに終わらせましょう。



図 黒星病の秋型病斑
(葉裏の黒いしみ状の病斑)

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	FRACコード
ICボルドー48Q	銅	収穫後～開花前	M1
オーソサイド水和剤80	キャプタン	収穫3日前まで	M4
オキシラン水和剤	キャプタン、有機銅	収穫3日前まで	M4、M1
オキシンドー水和剤80	有機銅	収穫3日前まで	M1

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示します。

FRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。